

## 第5学年1組 道徳科学習指導案

【日時】令和6年7月24日(水) 9:20~10:05 【場所】5年1組教室 【指導者】田中 大介

### 本授業の参観の観点

児童一人一人が課題を設定し、解決のために学びを進めます。男の子との約束と夢の実現という2つの価値について考え、比較する中で、誠実に生きるとはどういうことなのか、考えを広げ、深める姿をご覧ください。

- 1 主題名 誠実に生きるとは? 【中心価値 A-2 正直、誠実】  
【周辺価値 A-5 希望と勇気、努力と強い意志】
- 2 教材名 「手品師」 (新版・みんなの道徳5 学研)
- 3 題材の構想

#### (1) 主題及び教材について

誠実とは、言動に嘘偽りがなく、真心がこもっていることである。児童が健康的で積極的に自分らしさを発揮できるようにするためには、自分の気持ちに偽りのないようにすることが求められる。また、何事に対しても真面目に真心を込めて、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢をもつことが大切である。一方で、自分の利益のみを追求したり、自分の不利益を回避したりするために、私欲にとらわれたり、自分を偽ったりした行動をとってしまうことはよくあることである。しかし、それらの行動によって、他者の信頼を失うばかりか、自分自身の中に後悔や自責の念、強い良心の呵責が生まれることも多い。高学年期には、一人一人の誠実な生き方を大切にしながらも、自分自身のもつ誠実さをより高め、そのことに誇りと自信をもてるようにしたい。

本教材は、腕はいいがあまり売れない手品師が、「偶然出会った男の子との約束」と「大劇場への出演」の間で葛藤しながらも、男の子との約束を選択するという話である。葛藤する手品師の姿から、他者への誠実な行い(中心価値)と夢の実現(周辺価値)を比較して考え、それぞれの道徳的価値について改めて考えることができる。葛藤した末に男の子との約束を選んだ手品師の心情を想像することで、誠実に生きるとはどのようなことなのか、考えを深めることができる。以上の事から本教材は、誠実に、明るい心で生活する大切さを考えるのに適した教材であると言える。

#### (2) 児童について

本学級の児童は、明るく素直で、元気に学校生活を送っている児童が多い。しかしながら、誰かのための行動を面倒だと感じたり、自分のしたいことを優先して行動したりする様子も多く見られ、誠実に生きることが、自己の明るく楽しい生活につながるということを実感している児童は少ないと考えられる。「誠実」に関わる事前アンケートでは、「「誠実」と聞いて思い浮かべることをは何ですか。」という質問に対し、ほとんどが「嘘をつかない」「真面目」「正しい」「真心がある」などと回答した。中には「努力をして、成長をして、上を目指す」「真剣に取り組む」といった回答も見られ、誠実な生き方が、目標に向けた努力や強い意思とながっている児童も数名いることが伺える。「約束を守れなかった経験はありますか。」という質問に対し、「ある」と答えた児童は29名と多く、具体例として「他のことに夢中で時間に遅れた」「他に用事ができた」というものが多かった。このことから、葛藤する手品師の心情を自分事として考える中で、その葛藤に共感したり、人の心の弱さに気付いたりすることができると思う。

道徳の学びを進めるにあたり、「自己主張」「他者受容」「関係調整」の3つのコミュニケーションに関わる観点で児童自身に質問紙を用いたところ、表1のような結果が得られた。

表1 コミュニケーションスキルに関する質問内容及び結果(人)

項目	質問内容	できる	少しできる	あまりできない	できない
自己主張	自分の考えを筋道立てて説明することはできますか。	11	18	5	1
他者受容	相手の意見や立場を尊重することはできますか。	24	10	1	0
関係調整	他者と言い争いになることなく話し合うことができますか。	17	11	4	2

どの項目についても自己評価が高かったが、自己主張と関係調整については比較的低い自己評価の児童がおり、これらの項目に関して意識を高めてく必要があると感じる。

### (3) 指導について

指導に当たっては、以下の3点に留意する。1点目は、児童一人一人の課題を整理することである。そのためにロイロノートを用いて一人一人がどのような課題をもっているのか明らかにするとともに、似ている課題同士を意識できるようにする。そうすることで、児童同士の交流に生かせるようにしていきたい。特に本時では「手品師が男の子との約束を優先した理由を考えること」が課題として多く挙げられると考えられる。2点目は、児童の姿の見取りである。児童同士の交流の場（グループでの対話や「おさんぽタイム」）において、児童の実態から、特に自己主張（自分の考えを理由も含めて友達に説明している姿）や関係調整（自他の意見のよさを認め合いながらよりよい考えを見いだしている姿）について望ましい態度をとっている児童について価値付けることで、学び合いがより活発になるようにしたい。3点目は、発問の精選である。児童自らが課題を設定し、その解決に向けて学び合う学習を保障するため、全体に向けての基本発問を導入場面と展開後段のみ行うこととする。特に展開後段については、手品師のその後について考えられるような発問をすることで、誠実に生きるとはどういうことなのか、視点を変えて考えられるようにしたい。それ以外については、児童一人一人の課題解決の一助とするための補助発問を行い、児童の意見を具体化したり、比較したり、揺さぶったりしていくこととする。児童の課題解決を第一に考えながら学習を展開していきたい。

### (4) 期待する「回遊する学び」について

本題材及び本時における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付けたものが、表2である。

表2 期待する「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力、児童の姿

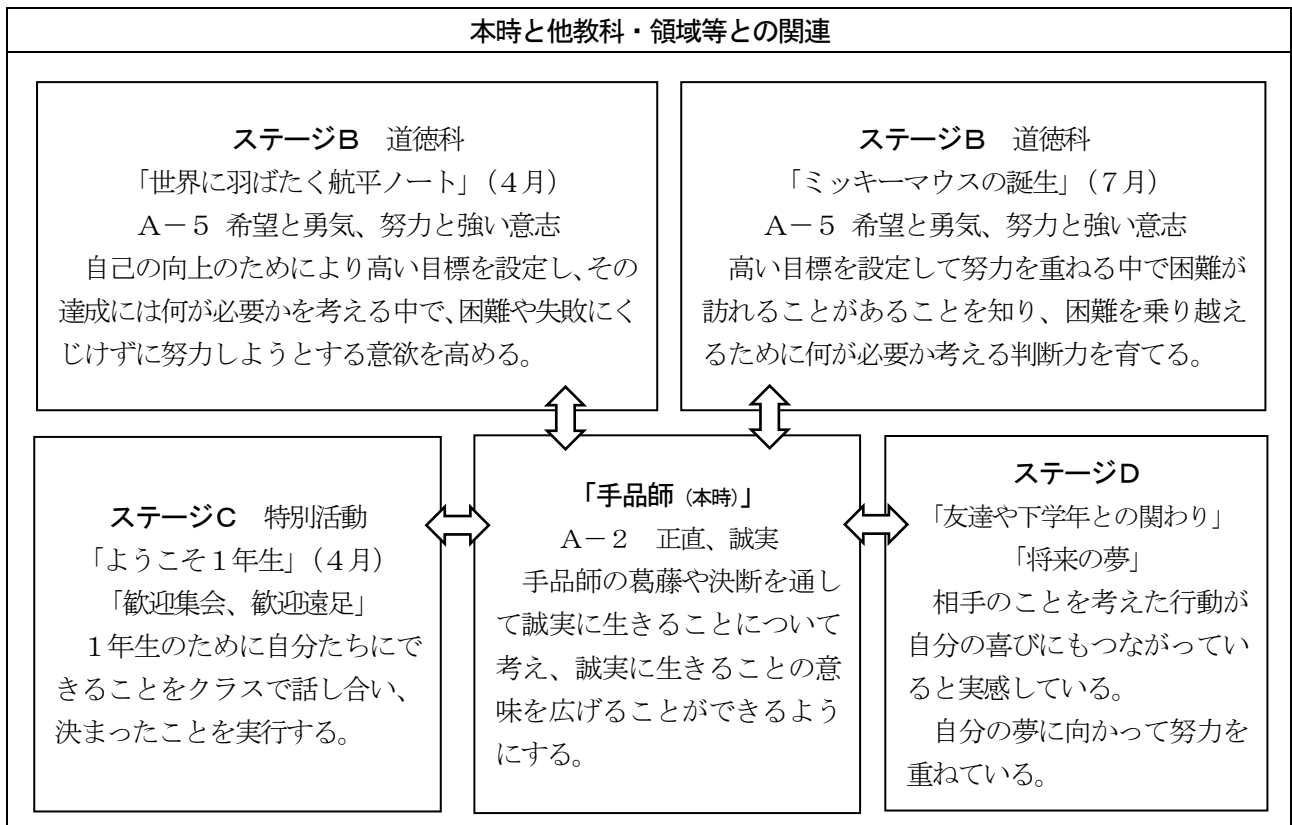
	内容	資質・能力	児童の姿
ステージB 「自教科」	道徳科 「世界に羽ばたく航平ノート」 内容項目 希望と勇気、努力と強い意志	・目標達成に向けて努力を重ねた内村選手の生き方から、夢の実現のためにあきらめないことの大切さに気付いている。 【道徳的心情】	自分の夢に向かって努力することは、自分自身に対して誠実に向き合っていることであると捉えている。
ステージC 「他教科」	特別活動 「ようこそ1年生」 「歓迎集会、歓迎遠足」	・自分の損得に囚われず、下級生のためにできることを考え、取り組むことができる。 【思考・判断・表現】	誰かのために行動することが、自分自身の喜びにつながっているということに気付いている。
ステージD 「実生活・実社会」	友達や下学年との関わり 将来の夢	・日常において年下の子に対して真心を込めて接している。 【主体的に学びに向かう態度】 ・将来の夢に向かって努力を重ねている。【主体的に学びに向かう態度】	これまでの自分の経験と重ね合わせ、自分だったらどうするか、どうしていたかを考えている。

ステージBについては、手品師の葛藤を比較する際に表れると予想される。手品師が大劇場への出演（＝夢の実現）を選ばなかったことから「大劇場への出演を選ぶのは駄目なのか」という考えをもつ児童も出てくるだろう。夢の実現を選ぶことが決して悪いことではなく、むしろ「自分自身に誠実である」という考えに至る際の根拠として、本学習が生かされてくることを期待する。ステージCについては、「なぜ手品師は男の子との約束を優先したのか」を考える際に表れると予想される。これまでの特別活動で、1年生のために折り紙の兜をプレゼントしたり、歓迎遠足で関わりをもったりしてきた。それらが「男の子との約束を優先した手品師」の心情に共感するきっかけとなることを期待する。ステージDについては、手品師と自分を重ね合わせて考える際に表れると予想される。普段の友達や下学年との関わりや、考えている将来の夢について想起することで、手品師の葛藤がどれほどのものだったのかを想像したり、自分だったらどうするかを考えたりするきっかけとなることを期待する。

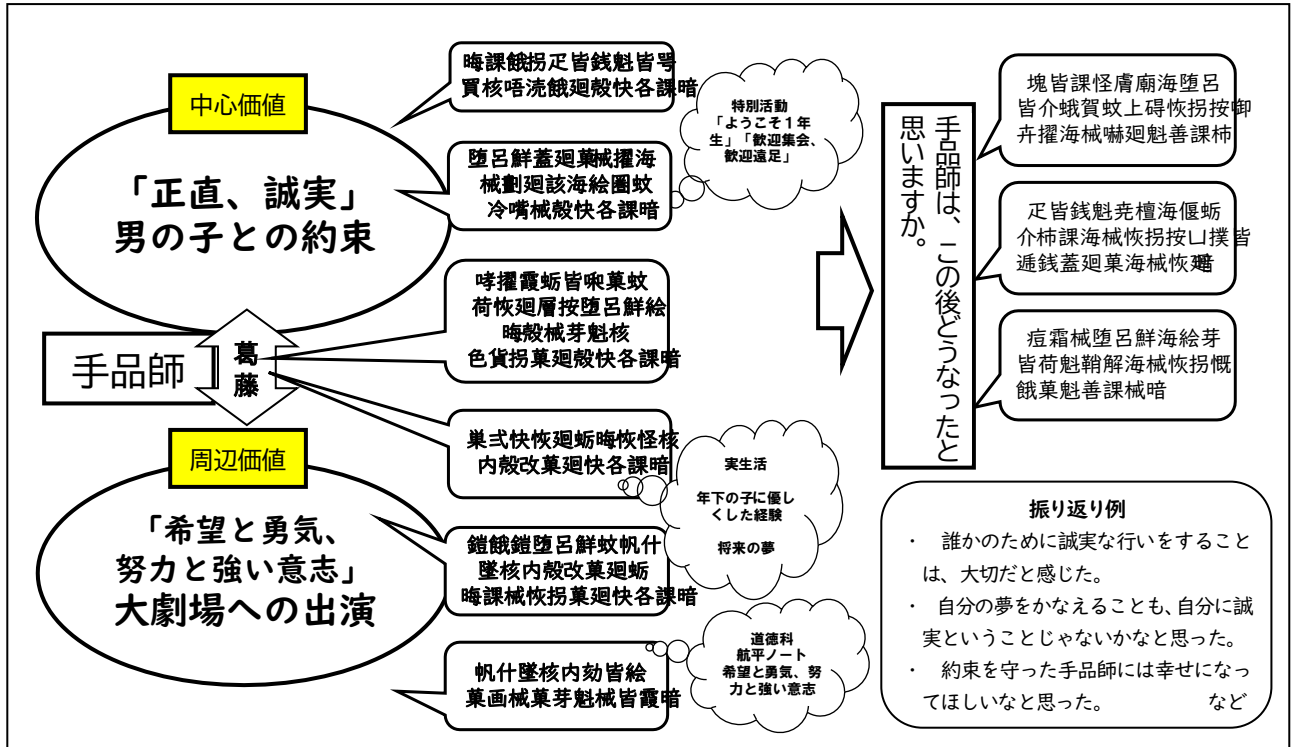
他者の発想については、自己の課題を解決するために友達と話し合う時間や全体交流で表れると考えられる。交流の時間を十分確保することで、たくさんの人の考えに触れることができるようにしていきたい。

4 題材教科等との関連および教材分析シート

(1) 本時と他教科・領域等との関連



(2) 教材分析シート



5 本時の指導 (1/1)

(1) ねらい

手品師の葛藤や決断を通して誠実に生きることについて考え、誠実に生きることの意味を広げることができるようになる (判断力を育てる)。

(2) 評価 (個人内評価)

夢の実現と男の子との約束のよさを比較しながら、自分なりの「誠実に生きること」についての考えをもっている。

(3) 展開 (波線部は「回遊する学び」に関わる手立て)

学習活動と児童の反応 ( )	教師の働きかけと形成的評価 (◆) 及び主な発問 (○)
<p>1 誠実について考える。 (3分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・真面目なことだよ。</li> <li>・嘘をつかず、正直なことだと思う。</li> <li>・「真心」ってなんだろう。</li> <li>・一生懸命努力する人だと思うよ。</li> </ul> <p>2 教材を読みながら今日の課題を考える。 (7分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が手品師だったらどうしただろう。</li> <li>・どうして大劇場を断ってまで男の子との約束を選んだんだろう。</li> <li>・手品師は誠実と言えるのか。</li> </ul>	<p>※事前に教材を読んでおき、手品師の言動について自分なりの考えをあらかじめもてるようにする。</p> <p>1 事前アンケートの結果を提示し、誠実について皆がどのような捉えをしているのか共有することで、主題と教材を関連付けて考えられるようにする。</p> <p>○「今日考えたいこと、話し合いたいことは何ですか。」</p> <p>2-(1) ロイロノートを活用することで、一人一人の課題が見えるようにするとともに、同じような課題をもっている友達がいるかどうか、確認できるようにする。</p> <p>2-(2) 机間指導を行い児童の課題を把握し、いくつか紹介することで、課題をもてない児童の課題形成の一助とする。</p>
<p>どうして手品師は大劇場ではなく男の子との約束を優先したのだろう。 など</p>	
<p>3 友だちと学び合う。 (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらも選ぶことはできなかったのかな。</li> <li>・手品師はすごく優しいけど、自分をもっと大切にしてもいいと思う。</li> <li>・大劇場に出たかったけど、やっぱり男の子がかわいそうだと思ったんだよ。</li> <li>・約束を大切に手品師はすごいな。</li> <li>・夢に向かって努力することも大切だと思うよ。</li> <li>・もし自分が手品師だったら、昔からの夢を諦めたくないから、大劇場を選ぶと思う。</li> </ul>	<p>3-(1) <u>学び合いの中で特に自己主張、関係調整のできている児童を称賛することで、児童が学び合いの内実を省察できるようにする。(他者)</u></p> <p>3-(2) 机間指導を行う中で児童の学び合いの内容を把握するとともに、似ている課題をもつ児童同士に交流するよう促すことで、課題解決に向けた話ができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆ これまでの学習や自己の経験と重ね合わせながら課題について考えたり、話し合ったりしている。(観察) → 児童の発言に応じて、<u>詳細や理由、自分だったらどうするか等を問い、価値付けることで、自己のこれまでの学習や経験を想起できるようにする。(BCD)</u></p> </div>
<p>4 全体で交流する。 (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手品師は男の子をがっかりさせたくなかったから約束を守ったんだと思う。</li> <li>・大劇場を選ぶことも誠実なんじゃないかな。</li> <li>・自分に誠実ということかな。</li> <li>・男の子を喜ばせたいという手品師の気持ちは分かるな。</li> </ul>	<p>4-(1) 児童の机を、教室の中心を向くように配置し、児童一人一人の発言に注目できるようにする。</p> <p>4-(2) 「大劇場に出演すること」に類する発言が出た際に「<u>大劇場を選ぶことは不誠実なのか</u>」という補助発問を行うことで、<u>誠実に対する考えを広げられるようにする。(B)</u></p> <p>4-(3) 「男の子との約束」に類する発言が出た際は、守った時と破った時の手品師の気持ちを問うことで、手品師の思いに迫ることができるようになる。</p>
<p>5 誠実に生きるとはどういうことか、改めて考える。 (10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男の子に見せた手品が町で話題になって、そのうち有名な手品師になったと思う。</li> <li>・男の子と一緒に暮らしたかもしれないよ。</li> <li>・手品師には幸せになって欲しいな。</li> </ul>	<p>○「手品師は、この後どんな人生を送ったと思いますか。」</p> <p>5 手品師の幸せな未来を想像する児童が多いことが予想される。それはなぜか問い、誠実な生き方が、周囲の人に与える印象について考えられるようにすることで、誠実について多面的・多角的に考えられるようにする。</p>
<p>6 本時を振り返る (5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手品師みたいに誠実な人になりたい。</li> <li>・約束を守ることも、夢を追いかけるのも、誠実だと思う。</li> <li>・○○さんの意見になるほどと思った。</li> </ul>	<p>6-(1) 発言の根拠を問うことで、児童一人一人のもっている価値観が明らかになるようにする。</p> <p>6-(2) 「改めて自分が考えたこと」「友達の意見のよいところ」があれば称賛し、価値付けることで、価値観の更新や友達との交流に対して今後も意欲をもてるようにする。</p>